



社団法人日本建築家協会
関東甲信越支部 長野地域会

NAGANO-KEN

CLUB JIA 長野県クラブ

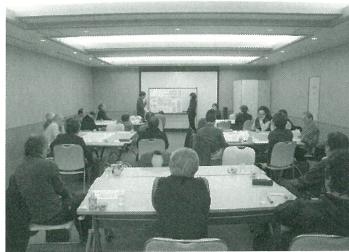
<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>
jia-naga@jeans.ocn.ne.jp

2013
1.28

Vol.96

滅・私・奉・公

JIA長野県クラブ 会長 川上恵一



冬のセミナー

新しい年が明けて已年となりましたがすでに仕事モードになって久しくなります。

JIA長野県クラブも代表を仰せつかってまもなく1年になろうとしています。私もクラブの事業活動の目的を会の活性化と社会へのアピールや貢献だと掛け声も勇ましく始めました。目的に沿って7つの委員会を立ち上げそれぞれの活動が活発に行われました。しかし委員長はじめ会の中心メンバーは積極的ですが全体に出席率が思うように上がってきません。私も出来るだけそれぞれの活動に参加しましたが、改めて出席して勉強になったことばかりです。賛助会員との交流も新鮮です。これも御輿に乗った代表の御利益かと思っています。しかしやってみて代表の役目は難しいということです。そしてその資質は自分には無いと言うことが解りました。と同時に歴代の代表の苦労も実感しています。

これまで地域会の中で委員長なり代表なりに勝手な意見を言ってきましたが、その時は自分の意見が一番という思いでした。しかしそんな身勝手なことは吹っ飛んで、「みんな違って・みんないい」という思いが強くなりました。一つの事業を決めるにしてもその決断は重いと言ふことです。多数決もいいが少数の中にも大事なものがあり落としてはいけないのです。問題への深い洞察力が必要でその後の決断力、合意のための説得力と行動力がリーダーの役目なのである。

ところで山本五十六は「やってみて・やらせてみせて・やってみせ・ほめてやらねば・

人は動かじ」という狂歌を残しています。軍国主義のあの時代にあれほどどのリーダーシップの持ち主でさえそういう感慨なのです。

その上で何か会員や賛助会員の希望に応えたり、それぞれがメリットを実感して貰うにはどうしたらいいのかを考えていますが、それにはまず会の活動に参加して貴重な会費を納めてくれた会員や賛助会員の意見を聞くことだろうが、参加してくれる仲間が多くなければそれも適わないことなのです。是非活動への参加をお願いします。

来年はJIAもいよいよ公益法人組織となります。我々の活動は仕事を通して自分たちの利益誘導ばかりでなく、社会に貢献することが求められます。一見苦勞ばかりで何のメリットも無いように思いますが、広い視野に立てばそれが我々の大きなメリットだとも思います。任期は一期2年ですが約半分が過ぎました。やはり一つのことをやって結果が出るのには2年は必要でしょう。私には代表の資質は無いにしても会員や賛助会員のためにもう少しお役に立ちたいと強く思っています。

私の恩師は仕事に対して「己を殺しなさい、そのことが自分を活かすことになる」と教えてくれました。大げさな言い方で恐縮ですが、滅・私・奉・公の気分です。



地域材フィールドワークin木曽



まち並みウォッチングin木祖村



JIA建築家大会・横浜

会員の集い～新井典夫さんを囲んで～

山口 康憲

去る10月22日に会員委員会の主催で第5回の会員の集いが松本で構造の事務所を主催されている新井典夫さんをお迎えして飯田屋で開催されました。

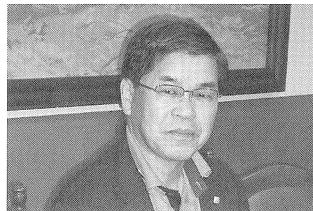
新井さんは設監協時代からのJIA会員ですが、他にも多くの活発な活動をされています。その功績で今年度県知事表彰を受賞されました。構造設計の分野からJIAに入会した経緯や他団体の目を通したJIAの存在と活動をどのようにご覧になっているかなど、大きな期待を持って参加させていただきました。

二部構成で行われ、前半は新井さんのお話を聞き、後半は大学の先輩でもありJIAでのお付き合いも長い高橋重徳さんと、やはり様々な団体や仕事で長い交流のある坂田賛助会長のお二人に新井さんの本音を引き出していました。大学での専攻は土木でしたが、いずれは故郷に帰って仕事をしたいという希望から織本構造研究所に就職され、ご自身大きな転機となったと仰る九州事務所に勤務の後昭和58年にA&A構造研究所を設立されました。

「建築とその仲間達」という名前が示す通り、設立当初から仕事としての建築だけでなく建築を通して社会にどのような貢献ができるかを常に考えていたそう

です。その強い信念から県に働きかけて適合性判定の組織を立ち上げたり、事協会長として告示15号の普及に尽力したという大きな成果を生みました。

我々JIA会員に対しては「建築家」を名乗る以上社会に対して何をするのかを強く問い合わせられました。日々の仕事に汲みと/or私のような者にとってはあまりにスケールの大きな話で、困惑し途方に暮れるばかりでしたが、自分にできることから少しづつ何かを始めようという前向きな気持ちを喚起された大変貴重な一時となりました。この場を借りて御礼申し上げます。



第二回地域材フィールドワークin木曽地域

新井 優

地域材フィールドワークは長野県内の山に赴き、山側の人々と交流することで実際に私達が日々の業務の中で地域材をより使いやすくする事が一つの目的です。

今後大量に間伐される地域材の川下対策が急務です。里で使わないと地域材利用は活性化しません。しかし、施主と直接対面する川下でのつくり手(設計者や工務店)は必ずしも地域材の家づくりを進めているわけでは無く、むしろ材木が全体工事金額の調整役になっている場合も多々見受けられます。私達JIA長野県クラブ会員が、良質な地域材の家を提案する事でこのような現状を良い方向に導いていけると大いに期待しています。

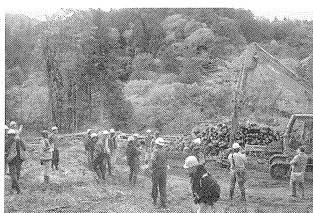
さて、川上側は元気で頑張っています。第二回地域材フィールドワークのステージは全国的にもブランドNO.1の木曽地域で10月30日に開催。但し、参加者はチョット寂しい17名。次回からはもっと多くの参加を要請します。

午前は勝野木材さんの木曽桧の伐採現場。ワイヤーロープの架線から吊りおろされる官材を見学しながら弁当。午後は勝野木材さんの工場見学。上松町木曾官材市売組合にて市場見学。組合事務所会議室にて意見交換会。

詳細はメール配布の報告書にて。

数年前の木曽の皆さんとの交流会とはまったく違う雰囲気。ブランドNO.1の誇りを持ちながらも、実際の製品や単価も明確に提示してこれから積極的に売り込んでいく熱意がしっかりと参加者に伝わりました。もはや木曽桧は高嶺の花ではありません。

今後、受け身では無くJIA長野県クラブとしての地域材利用への意識の向上や、情報の発信方法等の山側の熱意を活かす具体的な取り組みを委員会では考えています。



まち並みウォッチング・木祖村に参加して

吉田 満

11月の爽やかな秋空の中「まち並みウォッチング・木祖村」が開催されました。木祖村はいつも通過するだけで、この様な形で視察できることを楽しみにしていました。

木祖村は、官民一体となって昨年から景観計画の事業が行われています。現在もまちづくり委員長山田さんや信州大学と一緒にワークショップや調査が行われ、今年度中にまとめる予定だそうです。

始めに、木祖村観光商工課・圃中さんより木祖村の概要を説明して頂きました。

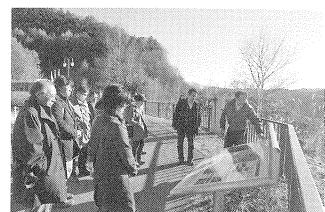
木曽川源流の里ということで「平成の名水百選」に認定され、味噌川ダム(奥木曽湖)は日本で一番水質の良いダムのひとつにも上げられ「ダム湖百選」に選ばれました。こういったことからも、水が木祖村にとって大切なものだと分かります。

今では木曽川上下流交流ということで、水源地保全活動や日進市、名古屋市、一宮市、尾張旭市など交流が盛んに行われています。

次ぎに、村のバスでまち並みウォッチングに出かけました。

大きく分けて「小木曽」「味噌川ダム」「白樺平別荘地」「水木沢天然林こだまの森」「菅地区」と案内して頂きました。インフラ整備は目処がたちこれからは「美しい村」にしていきたいと話されていましたが、それぞれに特徴がありどこも魅力的でした。

最後に役場に戻りディスカッションを行いましたが、景観と産業をいかに結び付けるかということが一番の目標であり、大切なことだと感じました。今後もどのような景観計画が創られていくのか見守っていきたいと思います。



「JIA建築家大会2012横浜」に参加して

林 隆

今年のテーマは「共に超える」。11月29日(木)と30日(金)の両日、事務所スタッフと共に参加しました。初日に急用ができ会場に着いたのはウェルカムパーティーが終りに近づいた頃でしたが、長野地域会のメンバーとの懇親会、その後神奈川地域会の方とも合流し深夜まで盛り上がりました。2日目午前は、シンポジウム「未来に残したい20世紀の建築」の会場BankART Studio NYKへ。3名のパネリストの報告の中で、「東京駅の再生」(田原幸夫氏、JR東日本建築設計事務所)は、オリジナルの精神を引き継ぎ100年後に残す建築を目指した建築家の仕事。容積規制移転により費用をまかない補助金を受けなかった事がこのプロジェクト推進の大きな要因になった、その経緯は印象的でした。

午後は神奈川県民ホールで、①大会式典、②基調講演「足るを知る」の江戸時代(田中優子氏/法政大学教授)、③パネルディスカッション「江戸から学び、未来に繋ぐ」(田中優子氏、山崎亮氏/京都造形芸術大学教授、芦原太郎氏/JIA会長)。物をつくる行為が一番尊いとされた江戸文化や、山崎氏が実践し

ているコミュニティーデザインの実例を通じてもわかるることは、人間関係と建築は無縁ではないこと。私たちは今何が大事なのかを考え直す時が来ています。

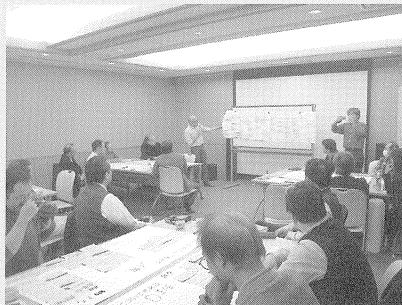
建築家の住宅模型展(日本の住まいと暮らしを再考する)やJIA新人賞全応募作品展など欲張りな選択をしたため、街歩きもできず少々ハードな2日間でした。今年の札幌大会にも行ければいいのですが…。



冬のセミナー

12月8日(土)安曇野蝶ヶ岳温泉・四季の郷「ほりでーゆ～」にて恒例の「冬のセミナー」が開かれました。午前中に幹事会が開かれ、午後は第1部として、今回は出版レビューを行わず、「環境について考える」をテーマに会員・賛助会員がワークショップ形式で討論会を行いました。建築を設

計するうえで常に念頭に置かれる『環境』について活発な意見が交わされました。第2部では賛助会の情報発信として、賛助会3社(三協立山株式会社・日本エンパイロケミカルズ株式会社・本久)からの最新情報を紹介いただきました。



冬のセミナー 「環境ワークショップ」に参加して

轟 真也

「信州の建築家とつくる家プラス 第9集」のテーマが「環境」ということで、冬のセミナーでは「建築と環境について考える」と題してワークショップが行われました。地域の魅力を抽出し再認識することでJIAとして何ができる、何をしていくべきか?という事で意見が出されました。環境を考えたときに「地域性」は大きな要素になってきます。長野県は南北に長い形状と周囲を山に囲まれていることから自然との関わりがますますかかります。「四季が美しい」「自然が魅力」「森や木が豊か」またこれに関連し「風土から生まれた文化」なども魅力として挙がりました。また街並みを見たとき「古い街と新しい街の混在、多様性」も挙げられました。またその反面、交通の不便さ、過疎問題、少ない職場、伝統産業や山づくりに係る後継者不足、そして街の混在性の裏にある人間が豊かであるがゆえに良くも悪くも外部の文化や新しいものを取り入れやすい社会性などが問題点として挙がりました。これに対してJIAとして何が出来るのかを考えたとき、歴史と新しい街

の混在や豊かな環境を良い形で残すには良いものを見極める「目利き」が必要であり、セレクトできる人材を育てることが必要。森や山、伝統文化を守るには地元材や地元の技術を大切に考え、地域を考えた設計活動が必要であり、そこに共通するものは職能を持つものと教育ではないかということでした。見極め、コーディネートできるための自己研鑽であり、次の世代に受け継ぐための後継者教育そして周囲の意識アップが私たちに出来ることなのではないでしょうか。その中には良質な情報の発信も含まれます。「信州の建築家とつくる家」の今後を考えた場合に公益性を持たせるためには、掲載にあたっての評価基準を設けたら良いのではないかとの意見もありました。今回のワークショップは単に環境と建築を考えるだけにとどまらず私自身今後のるべき姿について考えさせられる深い時間になりました。

冬のセミナー「賛助会員技術交流会」に参加して

北村 浩康

今回の賛助会員技術交流会では、はじめに三協立山株式会社さんより、自然の風力と室内外の温度差を利用した自然換気システム商品についての紹介がありました。片面開口への対応として、圧力差ではなく横風の運動エネルギーを利用した自然換気システムは、快適性と省エネルギーを兼ねた効果的な手法で、自然を取り込む技術として興味深く、大変勉強になりました。

次に、日本エンパイロケミカルズ株式会社さんからは、木材保護塗料の特性と耐久性のある造膜型塗料コンゾランの説明がありました。木材の特性と劣化の関係性を詳しく説明いただき、塗膜の通気性を確保しながら、多孔質で汚れやすい木材の不活性孔を塞ぐことで、木材の耐久性を上げる事、塗装のトラブル

の多くが木材の高含水率が影響している事など木材の多孔質性をしっかりと理解する事の重要性を感じました。

最後は株式会社本久さん 株式会社タツミさん 新日鐵住金株式会社さんより木造住宅向けのスマートビーム工法の紹介がありました。大スパンで木材ではクリープが心配な場合などに有利な、強度・剛性が大きい鋼材を利用した工法は、4号建築物の場合も壁量計算と仕様規定で適用出来るなど、予算の限られた住宅でも可能性のある工法ではないかと思いました。

今回紹介いただいた技術も、省エネや安全性等の性能面だけでなく、快適性や心地良さにも繋がる技術で、大変貴重な機会となりました。

信州の建築家とつくる家+PLUS第9集

君島 弘章

信州の建築家とつくる家第9集が発刊されました。今回の9集はプラスという文字がタイトルに入り、住宅以外の作品も積極的に発表できるように配慮しました。結果として、さすがと唸るような素晴らしい作品が目白押しとなりました。日本建築家協会、JIA長野県クラブの日々の努力が垣間見える本となっていますので、ぜひ多くの皆様に目を通していただきたいと願っております。

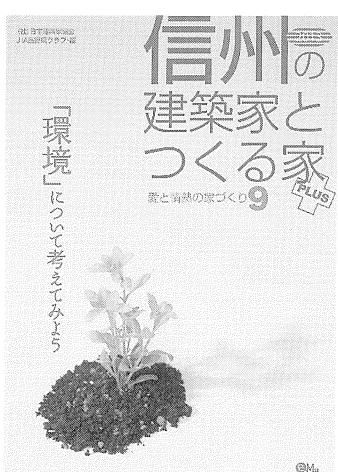
今回の特集記事は環境をテーマとして積極的に取材を重ね、化石燃料ゼロなど様々な提案を実践している飯田の「風の学舎」にJIA長野県クラブの川上会長ならびに会員諸士が宿泊して体験学習し、「風の学舎」主宰の平澤和人さんとの対談に臨みました。平澤さん達の環境への取り組み記事の内容も読みごたえのあるものとなっています。

第5回を迎える特別インタビューは上田の先輩建築家、依田政司氏です。後輩の我々からその人柄を慕われておられます。依田さんらしい御人柄がインタビューの隅々に表れております。

この時代に、この信州に生きた建築家達の社会との関わりの記録としても、生きた証としても、皆様にとって価値ある一冊になってくれれば嬉しく思います。

追伸

12月13日、松本にて中信地域の建築家によるブックレビューが行われました。参加した各建築家の作品の組み立て方、作法など貴重な話が聞けた素晴らしい夕べとなりました。今後も各地域でこのような催しが開催されることを期待しています。



賛助会だより

ふしぎな床暖房「ぬくぬく陽だまり」

自己過熱抑制型PTC発熱体と、自社開発で特許を取得したPTC専用コントローラとの相乗効果により圧倒的に安価なランニングコストを実現しました。

特にコントローラは他社に比べ立ち上がり時の電気を50%～67%節約する事が出来、更に敷設場所を4つの回路に分けそれを自由にオンオフ出来るため、必要な場所だけを暖める事が出来る無駄のない製品です。

ヒーターの発熱部では素子レベルで温度調節をするため、温度センサのない床暖房です。温度が上昇すると消費電力が低下し、一定の温度以上に

快適なライフステージづくりを、私たちは目指しています。

1717年創業の本久は時代の変化と共に変遷を重ね地域に密着した多業種一体型企業となりました。グループの中心となる建設関連部門において建築物に関するセクションを担うのが私の所属する建築部になります。大型施設から個人住宅まで建築物内外装工事の設計・施工・メンテナンスに対応しており、特にビル外壁工事やスポーツ施設に関する工事で県内トップクラスの工事実績を持っています。また近年は木架構をはじめと

株式会社メカ・エンジ 曽根 文靖

上がることはありませんので低温やけど(通常使用時)や異常過熱の心配がなく安全です。

床暖房対応であればどんな床仕上げ材にも対応出来、標準発熱体の他にハイパワー発熱体もありますので、床暖房用薄畳や無垢材、ジュータン、乾式・湿式コンクリート埋設(コンクリート埋設は、PTC発熱線)にも柔軟に対応出来ます。

発熱体の厚みが0.7mmと薄いため、既存床を約7mm上げるだけで簡単に床暖房へのリフォームも可能です。(6mmの床暖房用フローリング使用)

〒391-0011 長野県茅野市玉川2483番地 TEL:0266-82-0887

株式会社 本久 岸本 貴志

した地域産材による建材の普及にも取り組んでいます。諸所の建物コンセプトや要求性能、意匠等設計者のニーズに対して応えていくために新しい技術も広く取り入れ、又、職人の育成も行っていますので、JIA会員の皆様におかれましてはこだわりのある良質な建築を作り上げるパートナーとしてご用命いただきますことを心よりお待ち致しております。

〒381-0045 長野市桐原1-3-5 TEL:026-241-1155(建築部)

ひとにやさしい空間づくりへの貢献

各種鉱木・木材の提供、プレカット材の設計加工、住宅建材・住設機器・ビル建材の販売施工、そして宅地の開発分譲やハウジング提案に至るまで、総合的な提案力と供給体制のもとからお届けしています。

〈プレカット〉 山二ではお客様での設計段階から構造計画へのサポートを行っています。また在来軸組工法でのプレカットのほか、仕口継手部分を金具で接合する金物工法でもいち早く対応。さらに在来仕口、金物工法の入り混じったハイブリッド工法も提供しています。住まいの性能表示・品質保証など、お施主様からの関心の高いサービスを実現させることができます。お客様から一大早く設計図をもとに、部材の設計・加工・成形・納品まで一貫体制で提供しています。また専用ストックヤードには、KD材・EW材を常備し、つねに最適な木材を加工工程に供給することが可能となっています。

〈住宅建材・住設機器〉 山二では、住宅用木材・資材・設備のあらゆるニーズに対応した商品並びにサービスを提供しています。最適な建材・住

株式会社 山二 ビル建材部 竜野 陽

設機器の選定、ご提案から取付工事まで、自社一貫体制のもとで行っていますので、工期の短縮、高品質施工をお約束いたします。技術サービス面でのご支援についても、様々な提案、アドバイス等についてきめ細かくお応えしています。

主な取扱:木材・建材・住設機器・外壁工事・住宅用サッシ・エクステリア・自然塗料・各種工法支援。

〈ビル建材〉 私たちがビル建材の販売、施工、メンテナンスを通じて目指すもの。それはビル建物の外装におけるトータル品質の実現です。ビル外装からインテリア建材まで、企画段階からお任せいただける総合提案力、一貫性のあるサポート体制により、速やかで機動的な対応を実現しています。

主な取扱:アルミサッシ・アルミ・木複合サッシ・木製サッシ・鋼製建具・ステンレスサッシ・シャッター・外装パネル・各種金属工事・硝子工事・木質ラーメン構造・サイン工事・手摺工事。

〒382-0045 須坂市大字井上1700番17 TEL:026-242-5455

株式会社ランバーテック 専務取締役 丸山 淳治

Health & Ecology事業として環境断熱材を用いて省エネに貢献し、その事が建築物の耐久性を向上させ住む人に健康をもたらします。NPO新住協のQPEXを用いてセルロースファイバーの新築時／断熱改修時における施工提案を行なっています。

私たちには建築物という守るべき財産と住まう人々、生活文化や森林などそれを取り巻く大切な環境に、「共に生きる想い」と「木を活かす技術」を通してより安心で豊かな社会づくりに貢献します。

〒399-0033 長野県松本市笛賀7189-2 TEL:0263-86-3486

「With a Life」人と共に、暮らしと共に、自然と共に。

「LUMBERTECH」それは「木を活かす技術」。

HouseCare事業としてシロアリを始め害虫からお家と家族を守り、快適で安心な暮らしを長期間守る仕事を行なっています。最近では住宅履歴書を通じてデータを整備し、大切な資産を永続的に守りながら次の世代まで残すことに取り組んでいます。

LifeCreation事業として長野県産材を独自に調達し自社工場で「長持ち加工」、家庭へ都市へ安らぎを提供します。オリジナル高耐久外構材の販売や工事を行なっています。

高いレベルのスキルと倫理観のある真の有資格者の育成。

新入会員

株式会社 総合資格

長野営業所 所長 高田 武弘

いただきました。当社はいまやスクールビジネスにおいては1級建築士でNo1の地位を築くことが出来ましたが、まだそこには満足してはおりません。1級建築士に関してはNo1に甘んじることなく、合格者の7割を当社から輩出することを目指し講座や教材の開発に取り組み、新規事業として数年前から開始した「出版事業」「法定講習事業」もライセンススクール並みの事業の柱とすべく、積極的に拡大を図り取り組みを行っております。

〒380-0822 長野市南千歳878-5グランヴィル南千歳7F TEL:026-268-0811

■開催したイベント

10月22日(月)… 第5回会員の集い

10月30日(火)… 第2回地域材フィールドワークin木曽

11月16日(金)… まち並みウォッチングin木祖村

12月 8日(土)… 冬のセミナー&忘年会(安曇野市 ほりで~ゆ)

■今後の行事予定

2月10日(日)… くらしの空間セミナー

2月23日(土)… 建築祭(文化講演会)

2月24日(日)… 建築祭(長野県学生卒業設計コンクール)

編集後記

昨年末に衆議院選挙の結果により政権が交代して新年を迎えました。新政権成立直後から矢継ぎに経済政策が打たれた結果か、円安・株価上昇の機運が見えているよう(?)です。その反面、個人的に大変憂慮している「原発問題」などは経済優先的な動きの中で、幅広い印象を受けています。「必要なもの」はそれぞれの立場や状況で変わるものかも知れませんが、「本当に大切なものは」はそう変わるものではありません。見誤らないようにしてほしい(したい)ものです。 下崎明久

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

編集人/下崎明久 発行所/JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303

発行人/川上恵一

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/> E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp